

第15回火山噴火予知連絡会議事録

日 時 : 昭和54年2月8日(木) 13時30分~16時30分
場 所 : 気象庁東京管区気象台会議室
出席者 : 永田、横山、高木、浅田、下鶴、行武、久保寺、加茂、太田、山本(英)(科学庁)、
城野、飯田(文部省)、春山、茂木、高橋、末広(気象庁)、渡辺、田(気象庁)、
河村、神沼(幹事)
臨時委員 : 勝井(北大)、清野(札幌管区気象台)
オブザーバー : 渡辺(国土庁)、平畑(文部省)、三宅、久本(気象庁)
庶 務 : 大野、吉留、永福、小宮

〔議事に先立ち永田会長から委員異動について次のとおり紹介があった。科技厅生活科学技術課長清水真金氏から平野拓也氏〕

1. 第14回連絡会議事録(案)は異議なく承認された。
2. 最近の火山活動

2.1 有珠山

横山委員 : 震央分布、大有珠・小有珠で発生する地震のひん度推移、北麓の上下変動、東麓の傾斜変化、湖岸と外輪の辺長変化、基線距離の伸長に伴う新山・おがり山の標高補正。

清野臨時委員 : 地震観測点の変更、地震回数、有感地震回数、地震エネルギー等について

総合検討

横山委員 : 新山・おがり山の隆起率は当初の約1/20に減少しているものの活動はまだ続いており、治まるのはまだ先だと思うが、社会的には別の見方が必要だ。

清野臨時委員 : 活動は下がってきたが、あるレベルからはなかなか減少しない。噴火はほとんど考えられない。

勝井臨時委員 : 過去と比較し最近の噴火活動期間は長くなる傾向にあるが、噴火は大体終わったのではないか。活動も学問的には続いているが、社会的には終息したとみなしてよいと思う。

有珠山の火山活動についての統一見解

「有珠山では、昨年8月から9月にかけて小噴火がくり返し発生したが、10月にはその回数が減少し、10月27日の小噴火以後約3か月間噴火が発生していない。また地震活動及び火口原内の隆起も火山活動が始まってから最も低い水準にある。このように、火山活動の鎮静化が進行しつつあり、今後山麓に大きな影響を及ぼす噴火が発生する可能性は少ない。

しかし、山頂付近における地熱地帯の拡大と、一時的な噴煙活動の活発化の可能性があり、有感地震の発生及び有珠山とその北麓での地殻変動は当分は続くものと思われる」

2.2 桜 島

加 茂 委 員：①活動報告

②集中観測報告

地震活動、地殻変動、熱分布、地磁気、重力、火山ガス、温泉、噴出物、噴火機
構

③総 括

ためこんでは出している状態だが、ためこみが追いつかないため桜島は沈降した。
ただ始良カルデラの下ではためこみはじめたと思われる。

行 武 委 員：電気抵抗測定（予備調査）について

大野（気象庁）：活動報告

桜島の火山活動についての統一見解

「昭和50年の第1回、昭和51年の第2回にひきつづき、昭和53年11月から12月まで、
桜島に対して第3回集中観測を実施した。

地震活動、火口内の地熱隔測、地磁気測量、火山ガス・温泉調査及び噴出物の脱ガス状態からみ
て、表面現象である山頂噴火活動は依然として高い水準を保っている。その結果として桜島は若干
地盤沈下を続けている。一方、深い地震活動、重力測定、噴出物主要成分及び火口以外の熱的状态
の調査の結果には異常は認められていない。

総合的にみて、山頂噴火活動は依然として横ばい状態で、大規模活動に移行する兆候は認められ
ない。しかし爆発や降灰を伴う活動は当分は続くと思われるので、今後も火山活動の推移の注意深
い監視を続ける」

2.3 樽前山

大野（気象庁）：活動報告（注意深く見守る必要がある）

横 山 委 員：観測報告（いつ噴火してもおかしくない状態である）

清野臨時委員：山頂付近の雪に層状の降灰の跡がみられた。

以上検討の結果、経過を見守る必要はあるが特にコメントは発表しないとの結論に達した。

2.4 伊豆大島

下 鶴 委 員：三原山火口の辺長測定、大島近海群発地震の震央分布

行 武 委 員：三原山火口周辺の電気抵抗並びに全磁力時間変化

2.5 霧島山

下 鶴 委 員：震央分布、火口温度分布

2.6 硫黄島

高 橋 委 員：活動報告

2.7 南硫黄島周辺の海底火山

茂 木 委 員：活動報告

2.8 雲仙岳

太田委員：近況報告

2.9 その他

配布資料の説明

①久保寺委員：阿蘇火山の集中観測報告・京都大学理学部火山研究施設要覧

②下鶴委員：ユネスコ噴火災害作業委員会議事録

3. 連絡会庶務報告

昭和54年度火山噴火予知計画関係予算内示額に関連し、永田会長から次の発表があった。

地質調査所に関連予算が認められたが、できれば、本連絡会委員をお願いしたいので、渡辺委員に折衝を一任したい。

4. 協議事項

(1) 次回連絡会開催期日

火山学会春季大会終了の翌日5月11日(金)を予定

(2) その他

昭和54年度の大学の集中観測は富士山と吾妻山を予定(下鶴委員)

[17:00~17:40 記者会見 気象庁記者室]